

週刊金曜日

2|16²⁰¹⁸

1172号
毎週金曜日発売
定価 580円

沖縄・名護の現場ルポ



「別姓訴訟」の新しい視点

青野慶久・サイボウズ社長／打越さく良・弁護士

最高裁を「人権の砦」にするために

泉徳治・元最高裁裁判官

多様な家族を認める民法論議を

二宮周平・立命館大学教授

「戸籍」から「個籍」へ 新たな「別姓訴訟」と家族法

二宮周平立命館大学教授に聞く
多様な家族を前提にした民法論議を

打越さく良弁護士に聞く
新たな「別姓訴訟」では「カップル間不平等」を問う

青野慶久サイボウズ社長に聞く
選択的夫婦別姓にしないのは経済的に大きな損失

妻の姓を選択した吉田尚史氏に聞く
姓を選択制にしても不利益を蒙る人は誰もいない

対談 泉 徳治 × 坂本洋子
憲法から具体的権利を引き出す司法へ

ルポ 沖縄・名護 辺野古新基地建設の現場から
選挙後も続く抗議「我々は諦めない」 写真・文 島崎ろでいー 12

石牟礼道子を悼む
「魂たちの在所に志を」 鎌田 慧 30
共同体が壊れてゆく近代化を問い続けた 田中優子 31

仙台北陵クリニック・筋弛緩剤冤罪事件
仙台高裁は再審開始の決断を 山口正紀 32

中国電力・上関原発計画のいま
祝島の人びとの葛藤と上関町議選 山秋 真 34

森友学園疑惑の「証拠隠滅」を計っているのは政府だ
籠池夫妻を釈放し佐川長官を罷免せよ 川内博史 36

連載 ぶれない・あきらめない・おそれない 福田 稔
草の根で日韓交流続けるパントマイム劇団「湘南亀組」 西村仁美 38

殺人事件捜査で重要情報の握りつぶし疑惑が発覚！
京都府警組対課は傷害事件の真相も隠蔽するのか 成田俊一 44

連載 自由と創造のためのレッスン⑧
C.L.R.ジェームズとは誰か 廣瀬 純 48

くらしの泉

連載 こせがれ、農に生きる⑥ 三元豚って何？ 宮治勇輔 56

[GM]「遺伝子組み換え不使用」表示が消える！ 非GM食品を選びたくても選べなくなる事態に 天笠啓祐 57

新・買ってはいけない②⑨ 着色料を使っているのに表示していないトンドモケース 渡辺雄二 58

風速計

……から見れば 落合恵子 9

政治時評 西川伸一 10

経済私考 鷺尾香一 11

新・政経外科⑬ 佐高 信 40

無責任架空対談⑳ 松崎菊也 41

ベンと剣 ④ マイケル・ベン 46

黒風白雨④ 宇都宮健児 47

俺と写真⑨ 本多勝一 60

初めて老いた!?⑬ 石坂 啓 61

たとえば世界でいま 42

チエコ／反難民の大統領が再選 福田 宏

英国／「孤独担当相」が新設 馬場千奈津

ドイツ／ADHDの子どもの砂入ベスト 田口理穂

きんようぶんか

【本】『1968[1]文化』鈴木耕 50

『世にも奇妙なニッポンのお笑い』佐野華英 51

『百年泥』高原到 51

【映画】『かぞくへ』相田冬二 52

【音楽】対馬亘 52

【美術】薄井崇友 53

【本箱】本田政昭（編集部）選 53

【インタビュー】『ザ・シークレットマン』

ピーター・ランデズマン監督 境分万純 54

それでもそれでもそれでも⑳ 齋藤陽道 2

金曜アンテナ 4

ジェンダー情報 9

きんようびのはらっぱで（情報欄） 64

読者会から 64

金曜日から 66

投書 62

遅い沖縄 …………… 櫻井智志

NHK集金人の失礼な態度 …………… 木下秀子

本末転倒の補助金支給要件厳格化 …………… 三輪則夫

金曜川柳 …………… 62

論争 63

ジェネリック医薬品について思うこと …………… 匿名



たとえば世界でいま



握手を交わすゼマン大統領(右)と、「チェコのトランプ」と呼ばれるバビシュ首相。(提供/AP・AFLO)

Czech Republic / チェコ

反難民の大統領が再選

決 選投票が1月26、27日に行なわれたチェコの大統領選で、欧州連合(EU)から距離を置き、難民の受け入れに反対する現職のミロシュ・ゼマン大統領が再選された。対立候補で元チェコ科学アカデミー総裁のイー・ドラホシュ氏が親EUを掲げたのに対し、ゼマン氏は親ロシア・親中国の立場で知られる。

決選投票の得票率は、ゼマン氏の51.4%に対しドラホシュ氏は48.6%。全体としては僅差であるが、首都プラハを中心とする地域に限れば、ドラホシュ氏が7割近い票を獲得した。これに対し、主要都市以外・50代以上・低学歴・低所得といったキーワードで括れる層については、ゼマン氏が強みを発揮した。

この結果は、チェコにおける社会の分断とポピュリズム(大衆迎合主義)の浸透

を物語っているように見える。大統領選でゼマン氏を支援した中には、実業家であり「チェコのトランプ」とも呼ばれるアンドレイ・バビシュ首相や、難民に対する排外主義的な主張で知られる日系チェコ人、トミオ・オカムラ氏もいた。オカムラ氏はブレグジット(英国のEU離脱)ならぬチェクジット(Czexit)、つまりチェコのEU離脱をも唱えている。ゼマン氏は離脱に賛成ではないが、離脱の是非を問う国民投票の実施には前向きだ。

昨年10月の下院選挙では、バビシュ氏率いるANO(チェコ語で「はい」の意味)が全200議席のうち78議席を獲得し、一気に第一党へと躍進した。オカムラ氏が党首のSPD(自由と直接民主主義)も22議席を獲得して主要政党の一つとなった。

1989年に社会主義体制からの転換、93

年にスロヴァキアとの分離を経たチェコでは、中道右派の市民民主党と中道左派のチェコ社会民主党が双壁をなし、例外はあるにせよ、基本的にはどちらかの政党が首相を輩出してきた。だが、昨秋の下院選では、どちらも第一党の座を獲得できなかった。ゼマン大統領はバビシュ氏を首相に指名したが、彼の政党ANOだけでは過半数に満たない。連立の相手は今なお決まっておらず、SPDが政権に入る可能性も指摘されている。

旧東欧諸国では、ハンガリーやポーランドで強権的な指導者が政権を獲得し、民主主義の根幹を揺るがすような政策を推し進めている。とはいえ今の時点では、チェコの政治がどこに向かうかを判断することは難しい。チェコの大統領はどちらかと言えば象徴的な存在であり、フランス大統領のような強大な権限を持たない。大衆的人気を有するバビシュ首相にしても、汚職疑惑を抱えており、議会での権力基盤は脆弱である。今後の展開を見極めるには、ANOがどの政党と連立を組むかという点に注目する必要がある。

福田宏・成城大学准教授

UK / 英国

「孤独担当相」新設 背景に900万人の孤立

英 国で1月17日、「孤独問題担当相」という新ポストが政府内に設置された。人口6560万人の英国では、900万人以上が社会で孤立し、孤独に悩んでいるという報告書を受けての措置だ。「孤独」は生活や健康面にも影響を及ぼすと